

## 相鉄・東急「新横浜線」が開業

相模鉄道(相鉄)と東急電鉄(東急)は、2023年3月18日より直通線の運行を始めました。本直通線は、相鉄の羽沢横浜国大駅から東急の日吉駅までを結ぶ約10kmの路線です。相鉄の西谷駅から羽沢横浜国大駅を経て新横浜駅までの区間が「相鉄新横浜線」、新横浜駅から新綱島駅を経て日吉駅までの区間が「東急新横浜線」と命名されています。

「新横浜線」が開業したことで神奈川県の中核部や横浜市の西部から都心へのアクセスが格段に向上しました。例えば、相鉄いずみ野線の湘南台駅から東京メトロ副都心線の新宿三丁目駅までは最速で59分、相鉄本線の海老名駅から都営三田線の大手町駅までは同70分で到達できます。相鉄は2019年にJRとの直通線が開業したのに続き、今回、東急と接続したことで、東京、埼玉の3都県に跨る14路線の広域ネットワークが形成されました。

今回の「新横浜線」の開業により、新幹線へのアクセスも大きく向上しました。相鉄の大和駅から新横浜駅ではこれまでの横浜駅経由と比較して約23分短縮して約19分で、また東急の渋谷駅からは従来の菊名駅経由よりも約10分程度短縮して約28分で行けるようになりました。JR東海は「新横浜線」開業に合わせて東海道新幹線の新横浜駅始発の下りのぞみを新設しています。早朝の時間帯では新横浜駅始発ののぞみを利用することで、東京駅や品川駅始発の新幹線に乗るより早く中部・関西方面にアクセスできます。

「新横浜線」の沿線では再開発計画も進行しています。新綱島駅一帯では高層棟と低層棟の複合施設が建設されています。高層棟は主にマンションで、低層棟には区民文化センターや商業施設などが入居する予定です。特に新綱島駅と直結する29階建ての高層棟のマンション「ドレッセタワー新綱島」は、2021年から販売が開始され、低層階の2LDKの部屋が6,300万円台と東京都心並みの価格でしたが、既に252戸が完売しています。購入層は地元住民が約半数で、都内居住者も約2割含まれています。年代別では30代から40代のファミリー層が中心で、都心に直結する利便性が魅力となっているようです。

また東急の東横線綱島駅の東口駅前でも横浜市により都市計画が決定され、約350戸のマンションや商業施設が入る27階建ての高層棟を含む複合施設を建設する計画が進んでいます。新綱島駅周辺は大きく変貌しようとしています。

神奈川県全体の人口は少子高齢化の波の中で減少が続いています。その中であって、市町村別では、相鉄の沿線である海老名市と大和市の人口の増加が際立っています。今回の「新横浜線」開通は、沿線市町の一層の人口の増加に結びつくものと期待されています。



建設が進む新綱島駅直上のタワーマンション



「新横浜線」の新横浜駅